

橋仔頭糖廠藝術村

橋仔頭糖廠は、1901年日本人が建設した製糖工場で、台湾で最初の現代産業基地である。

台湾第2の都市高雄市にあり、中心部からは北方へ地下鉄で30分の位置にある。第2次大戦後は国民政府が接収したが、製糖が衰退してからは、当地は火災に遭うなど次第に放置されていた。1994年まちづくりの風潮が高まる中、地域文化に関心を持つ人々によって、ここを文化的空間にしようとする動きがでてきた。1998年台湾で最初の産業遺跡となり、2001年橋仔頭糖廠藝術村が開設された。その後10年余り徐々に保存や整備が続けられているが、なお、整備途上である。現在、芸術村には元の製糖工場の迎賓館を活用した核施設「白屋」や、創作空間としての倉庫、芸術家の滞在施設などが点在しており、さまざまな創作活動や展示などがなされている。



また、芸術村は、行政院文化建設委員会（現在の文化部）が最初の駐村芸術家（アーティストインレジデンス）のモデル実施を行った7か所の一つに選ばれた。NGOとアーティスト組織が運営するのはこの芸術村だけであった。

28ヘクタールに及ぶエリア全体は国営事業台糖会社の所有で、芸術村は使用する部分を賃貸借方式で活用している。芸術村の運営は、「白屋」と「台湾芸術発展協会」が共同で担っている。「白屋」とは2001年橋仔頭糖廠藝術村づくりを推進した文化活動者やアーティストで組織するアート会社で、「台湾芸術発展協会」は2001年設立された台北の全国的民間文化シンクタンクである。

28ヘクタールに及ぶエリア全体は国営事業台糖会社の所有で、芸術村は使用する部分を賃貸借方式で活用している。芸術村の運営は、「白屋」と「台湾芸術発展協会」が共同で担っている。「白屋」とは2001年橋仔頭糖廠藝術村づくりを推進した文化活動者やアーティストで組織するアート会社で、「台湾芸術発展協会」は2001年設立された台北の全国的民間文化シンクタンクである。

28ヘクタールに及ぶエリア全体は国営事業台糖会社の所有で、芸術村は使用する部分を賃貸借方式で活用している。芸術村の運営は、「白屋」と「台湾芸術発展協会」が共同で担っている。「白屋」とは2001年橋仔頭糖廠藝術村づくりを推進した文化活動者やアーティストで組織するアート会社で、「台湾芸術発展協会」は2001年設立された台北の全国的民間文化シンクタンクである。



新台湾壁画隊

芸術村の活動の一つとして2010年「新台湾壁画隊」が組織され、これまで次のような活

動を行ってきた。

①「蓋白屋プロジェクト」

2010年11月20日、1.2m×2.4mのパネル64枚壁や屋根で構成された木造の「白屋」を芸術村に建て、台湾全土から60名の芸術家が集まって壁画を制作、2011年1月1日に完成した。その後、2011年7月台北、9月雲林、11月台東など台湾各地で蓋白屋プロジェクトを実施した。



②「コミュニティ創作プロジェクト」

2011年3月高雄白樹里で、6月屏東佳冬で、実際のコミュニティに入って壁画を描く試みを行った。その後も、台湾各地のコミュニティで住民や当地のアーティストと交流・協働しながら創作活動を行ってきた。



④「国際移動創作プロジェクト」

2012年は、海外にも活動を広げる計画を進めてきた。今回日本東北で行ったプロジェクトがその第1弾で、続いてイタリアでも白屋プロジェクトを実施した。

